

日本シティズンシップ教育学会

第2回研究集会



日時：

2021年

5月29日（土）

15:00～17:00

情報交換会：

17:15～18:30

テーマ：

多文化共生と多様性概念の普遍性を問う

：シティズンシップ教育の視点から



シンポジスト（五十音順）

小野“Perry”行雄

神奈川県立逗葉高等学校教諭、
法政大学／桜美林大学講師

上別府隆男

福山市立大学教授

辰野まどか

一般社団法人
グローバル教育推進プロジェクト
[GiFT] 代表理事

指定討論者・コーディネーター：

長沼豊

学習院大学教授

司会・共同コーディネーター：

小林亮

玉川大学教授

企画趣旨

グローバル化の進捗する現代社会において、平和で持続可能な未来に向けた多文化共生が重要な課題としてクローズアップされています。シティズンシップ教育は、多文化共生社会の構築にどのように貢献するのでしょうか。またシティズンシップ教育を語る上で、そもそも多文化共生の何を問題にしなければならないのでしょうか。さらに価値観の違いに起因する国際対立が鋭化する世界において、西欧的な民主主義理念とそれに依拠するシティズンシップ概念は果たして本当に普遍的なのか、それとも市民性のあり方自体に文化的多様性が認められるべきなのか、といった課題も問われなければなりません。

日本シティズンシップ教育学会の企画する第2回研究集会では、シティズンシップ教育と多文化共生をめぐるこうした諸問題について、学校教育、市民活動、NPO、国際機関という多様なフィールドをもつ気鋭の専門家が集い、討議します。現代社会におけるシティズンシップ教育の存在意義を問う多層的な議論の展開が期待されますので、皆さまぜひ奮ってご参加下さい。

<申し込み方法>

以下申し込みフォームから参加申し込みください。

参加申込受付者には、ID・PASを前日にお知らせします。

（締め切り：5月27日（木） 24：00）

<https://forms.gle/14VjVWZFrDawqVFs8>



主催：日本シティズンシップ教育学会（JACED）

実施方法：Zoomによるオンライン形式

<http://jaced.jp/COM>

<プログラム>

14:50 一般参加者の入室開始 (Zoom)

15:00 開会／あいさつ：水山光春 日本シティズンシップ教育学会 会長 (京都橘大学)

司会／趣旨説明：小林 亮 (玉川大学)

話題提供1：上別府隆男 (福山市立大学)

話題提供2：辰野まどか (一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト [GiFT])

話題提供3：小野 “Perry” 行雄 (神奈川県立逗葉高等学校教諭／法政大学・桜美林大学講師)

指定討論：長沼 豊 (学習院大学)

質疑応答／登壇者全員によるトークセッション：

17:00 閉会

17:15 参加会員によるオンライン情報交換会 (自由参加・途中退出可)

<終了予定 18:30>



～ゲスト紹介～

上別府隆男

宮崎県生まれ。文部省やユネスコに勤務した後、アメリカ・メリーランド大学で教育学の博士号取得。東京女子大学を経て2015年から福山市立大学都市経営学部教授。現在の研究分野は、ミャンマー・ベトナム・タイにおける教育開発、アジアにおける留学生や技能実習生など人の国際移動、トランスナショナル高等教育。また、広島県福山市や尾道市を中心に、ユネスコスクール支援、SDGs や ESD の普及を行っている。

発表タイトル：

ユネスコの地球市民教育とミャンマーの CDM (市民不服従運動) に見られる「市民性」

ユネスコの地球市民教育の概念を参照しながら、今年2月1日にクーデターを起こした国軍に対し多くのミャンマー市民が全国で続ける大規模な CDM (市民不服従運動) に見られる強い「市民性」の背景は何かを探る。

辰野まどか

学生時代に開発教育の仕事に携わり、ビジネスコーチ、米国教育 NPO、内閣府主催「世界青年の船」事業研修担当等を経て、2012年に GiFT を設立。事前事後研修や共創型海外研修などグローバル・シチズンシップ育成に関する場づくりを行っている。東洋大学食環境科学研究科客員教授。

発表タイトル：

多様性から共創と変容を生み出す「地球志民プロセス」

GiFT では、グローバル・シチズンシップを「世界をよりよくする志」と呼んでいる。自分の感性と繋がるところから始まる「地球志民プロセス」とともに、若者たちにどのような変容があったのか、そしてその変容が社会とどう繋がるのかを深掘りする。

小野 “Perry” 行雄

国際協力 NGO 事務局長、公立高校教員、大学兼任講師。フィリピン漁村がフィールド。中学校から高校、大学、教員研修までさまざまなところで開発教育を実施。大学では NGO 論、市民社会論、貧困論、サービスラーニングを担当。

発表タイトル：

若者と市民社会をつなぐ教育実践

大学進学率5%の高校の生徒は身近な私的領域を大事にし、100%の生徒は遠くを上から目線で見るところから、市民社会に目を向けるキーワードは「痛み」「イケメン」「アニメ」、大学では「身近な体験談」。むずかしいのが「食べ物」「ジェンダー」。開発教育の視点から、NGO 経験もからめて報告する。

日本シティズンシップ教育学会

